

4.まとめ

(1)休業4日未満労働災害の特徴

本調査で明らかになった休業4日未満労働災害の特徴をまとめると次のとおりである。

(若年層の労働災害の多発)

- ・休業4日未満労働災害を被災者年齢別にみると、10代20代の労働災害発生率が高い。休業4日未満は28.3%と休業4日以上(全国)17.2%と比べ11ポイントも高い。若年層は、他の年代と比べ、バランス感覚、とっさの動作等の心身機能は高く、同じような状況で災害に巻き込まれたとしても、若年層は受傷程度が小さいのか、他方、若年層特有の災害(例えば、転倒でも若年層特有の転倒があるかなど)があるのか。これらを明らかにするためには、休業4日未満の災害の詳細調査が求められる。

(一酸化炭素中毒、熱中症等の多発)

- ・「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症(脱水症等を含む)」は、死亡災害と比べ休業4日以上の災害の発生割合は低い、逆に休業4日未満の災害発生率が高い。これらは、一旦、労働災害が発生すると死亡災害に直結するといわれているものである。今回、休業4日未満の災害発生率が高い傾向にあることが明らかとなり、今後、「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症」による労働災害の防止を検討するには、休業4日未満データが有効になる可能性がある。

(ワゴン車等の最後部ドアを閉める時に頭をぶつける)

- ・宅配業務、郵便業務、各種営業中、ワゴン車、ライトバン等の最後部ドアを閉める時、風等で自然にドアが閉まった時、ドアに頭をぶつける災害が数多い。最後部ドアを閉めた本人自らの頭をぶつけたものや、隣にいた仲間の頭をぶつけてしまったものがある。

(清掃、点検等作業中、既設物に頭をぶつける)

- ・各種作業中に既設物に頭をぶつける災害が数多い。特に、清掃作業中、点検・検査中の災害が多い。ぶつけた物には、柱、キャビネット、階段、ベルトコンベア、排気ダクト、電気設備、ひさし、突起柵、看板、蛍光灯、低い天井等がある。

(患者、乗客等に殴られる等)

- ・患者にたたかれた看護師、乗客に殴られたタクシー運転手、駅員等、人に殴られた災害も数多く見受けられる。

(自動ドア等に激突)

- ・自動ドアに顔面が激突した災害が数件ある。また、建築工事現場で、はめ込んだガラスに激突した事例もある。

(蜂に刺される)

- ・スズメバチ、アシナガバチ等の蜂に、顔面、手、指、首等を刺された災害が数多い。

(清掃作業中、洗剤、洗浄液が眼に入る等)

- ・各種清掃作業中、洗剤、洗浄液（塩酸、油取りシンナー、エタノール等）が眼に入る災害が数多い。保護メガネを装着せずに作業を行った可能性もあるが、他方、保護メガネを装着していたにも関わらず被災した事例もある。これは、保護メガネの着用により軽度の負傷で済んだとの見方ができるが、一方で、現行の保護メガネでは防護が十分でなく改良が必要となる可能性もある。

また、建設工事においてコンクリート打設作業中、コンクリートやモルタルが眼に入ったものや、伐採作業で小枝を運搬中、小枝が眼に入ったものが数件見受けられる。

(台車等、人力運搬車に手、指等を挟まれる)

- ・台車、パレット、ボックス、ロールボックスパレット等を用いて荷物運搬中やカーゴ運搬中に手を挟まれる災害が数多い。某宅配事業者の労働災害データをみると、ロールボックスパレット（コールドボックスパレット含む）による災害が全体の30%近くを占めており、原因の究明、安全対策の検討が必要である。

(カッター災害)

- ・カッターナイフによる災害が数多い。カッターナイフを用いて、郵便物の束、ダクト、ホース、段ボール梱包、引越用テープ、ベニヤ、プラスターボード、電気コード等を切断中に被災している。

(割れたガラス、陶器等で手、指等を切る)

- ・割れたガラス、陶器に触れて被災するものが数件見受けられる。料理用ガラス、ガラス製ティサーバー、井や皿が割れ、それに接触し被災している。

(建物ドア等を閉める時に挟まれる)

- ・建物ドアを閉めた時に指を挟まれる災害も数多い。自ら閉めた時であれば、風等により勝手に閉まった時もある。建物の他には、自動車、ダンプ、金庫等のドアに挟まれたものもある。

(金属製資材の端部に触れ手・指を切る)

- ・鉄板の端部等、金属製資材の面取りしていない部分に触り手や指を被災している。

(動物、魚に指を噛まれる等)

- ・漁師が鮫に噛まれる、畜産業者が牛に噛まれる等、動物、魚に指を噛まれるなどの災害も数件見受けられる。

(病院で針が刺さる)

- ・病院で針がささる災害も数件見受けられる。抜糸した針等治療時の針、ゴミ袋等に捨てられていた針に誤って刺さり被災している。感染症に発展するおそれもある。

(釘を踏む災害)

- ・釘を踏む災害が数多い。建設工事現場でベニヤや栈木から出ていた釘を踏む、引越作業中に釘を踏む等が見受けられる。

(建築工事における休業4日未満労働災害の特徴)

- ・熱中症が著しく多い。
→熱中症の場合、軽度では休業4日未満でおさまるが、重度になるといっきに死亡災害に至るおそれがある。熱中症は休業4日以上の負傷災害には当てはまりにくい可能性がある。熱中症の原因分析、予防対策の検討には、これら休業4日未満のデータ活用が必要である。
- ・熱中症に次いで、切れ・こすれ災害、転倒災害の比率が高い。
- ・事故の型別には足場からの墜落が最も多い。高さ1.5m以下の低所の墜落が見受けられる。(休業4日以上→はしご等が最多)。
- ・切れ・こすれの起因物はカッターナイフ、くぎが半数超(休業4日以上→丸のこ最多)。
→カッターナイフを使った作業は休業4日未満の典型的災害である。カッターナイフによる労働災害防止対策の検討には休業4日未満のデータ活用が重要である。
- ・疾病性質別には打撲傷、創傷が約3分の2を占める(休業4日以上→骨折最多)。

(郵便業務における休業4日未満労働災害の特徴)

- ・転倒災害が著しく多く半数以上を占めている(休業4日以上→交通事故が最多)。
- ・疾病性質別には打撲傷が半数以上と最多(休業4日以上→打撲傷と骨折各30数%)。
- ・年齢階層別には29歳以下が最も多い。

(2)休業4日未満労働災害データの有用性

今回の調査では、データに限りや偏りはあるものの、上記のように休業4日未満労働災害の特徴をいくつか抽出することができた。これらの多くは、発生頻度が不明で受傷程度が小さいことなどから、これまで十分な安全対策が講じられてこなかったものである。

しかし、死亡災害、休業4日以上労働災害が減少する中、今後は、更なる労働災害防止のため、このような労働災害にも目を向け安全対策を検討することが必要である。すでに、カッターナイフによる切れ災害、ロールボックスパレット（コールドボックスパレット含む）による挟まれ災害などでは、労働災害防止の重点課題にあげ鋭意対策を進めている企業もあり、受傷程度が小さくても発生頻度が高いものについては、積極的に労働災害防止対策を検討する必要がある。

また、「一酸化炭素中毒・硫化水素中毒」、「熱中症」のように、死亡災害が頻発しているにも関わらず休業4日以上労働災害発生割合が小さいものについては、労働災害防止の検討のため、休業4日未満データが有効になる可能性がある。

以上のように、休業4日未満労働災害データは、今後の労働災害防止対策の検討に有用である。

(3)今後の課題

今後の課題としては、休業4日未満労働災害の詳細分析のためには、現状の当該労働者死傷病報告の様式では、労働災害分析のためのデータ量が十分ではなく、また、データの信頼性に限界があることなどから改善が求められる。

改善案としては、提出する事業者の負担を増やすことなく、労働者死傷病報告の様式に、休業4日以上労働者死傷病報告の様式にあるような職員記入欄を加え、職員により事業者の職業分類、事故の型、起因物等をコード等により記入することが考えられる。